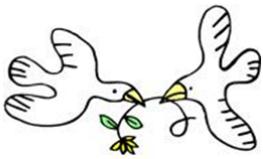


市民活動支援センターは、市民活動団体、社会に貢献しようとする市民を応援します

上尾市市民活動支援センター情報誌



むすびん

平成27年
1月
第15号

〒362-0075 上尾市柏座1丁目1番15号

TEL:048-778-1810 FAX:048-778-1820 E-mail:s53500@city.ageo.lg.jp

公開講座

「市民活動団体のためのパワーアップ講座」

今年度で5回目を迎える当センター公開講座が、昨年11月22日(土)と29日(土)の2日間にわたって開催されました。市民活動のパワーアップを目指して、印象に残る活動紹介の手法や、充実した活動のための心構え、団体の力を発揮させるリーダーシップの取り方などを学んでいただきました。

1日目は、「市民を巻き込む決めゼリフ」と題した東一邦さん(元さいたま市市民活動サポートセンター長)による講義で、効果的で印象に残る活動紹介の手法を受講者との対話形式で展開しました。広報を熟知した東さんならではの、わかりやすく実践的な講義に受講者の皆さんからは「自分のやりたいこと、やっていきたいことの伝え方、考え方を学ぶことが出来たのでよかった」「独りよがりではなく、相手の立場に立った広報の重要性を認識でき、楽しく参加することが出来た」と、好評でした。

2日目1部の「充実した活動をするには」の梶原隆之さん(文京学院大学人間学部准教授・協働のまちづくり推進事業選考委員会副委員長)による講義は、楽しく、魅力的な活動にしていけるには、実施後に「ふりかえり」を行って、充実感を持てるように、リーダー的立場にある人がいかに導いていくか、具体的にお話しいただきました。



【東 一邦さん】

2部は三浦匡史さん(NPO法人都市づくりNPOさいたま事務局長)による「市民活動のリーダーとは」の講座で、市民活動が上手くいく団体のリーダーにはどんな資質が求められるのか、事例を交えながら講義を展開。会議のプロセスを視覚的にまとめた事例紹介では、「ホワイトボードを活用した議論の見える化は参考になった」などの感想が寄せられました。



【梶原 隆之さん】



【三浦 匡史さん】

ひきこもっている若者の就労支援

～講演会「静岡方式で行こう！」から学ぶ～

不登校の子どもを持つ親の会 ムーミンの会

今年度の「協働のまちづくり推進事業」に採択された「不登校の子どもを持つ親の会 ムーミンの会」(代表:唐澤恵子さん)の「ひきこもっている若者への支援」を紹介します。本事業のテーマは、「若者の力を生かす働き方に繋がる援助のシステムを考える」。学齢期を過ぎても働けず、ひきこもっている若者が国内で70万人いるといわれており、上尾市でも一定数の若者がひきこもりの状況にあります。今年度上尾市に新設された「子ども未来部 こども・若者相談センター」と連携して、働く能力、意欲はあっても就労に踏み出せない若者を支援していこうとする取り組みです。

まず、他市の実践から学ぶ講演会が11月15日、



【「静岡方式でいこう！」津富 宏さん】

上尾公民館で開催されました。「静岡方式で行こう！」は静岡県立大学教授・NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡代表の津富宏さんが講演。元少年院の教官として出院者の就労に関わり、「仕事に就くことで人生が変わる」ことを実感。大学への転職を機に非行に限らず、ひきこもり、ニートなど問題を抱える若者の就労を支援する団体を立ち上げ、特色ある実践で成果を上げています。「静岡方式」は、特別な人ではなく、地域の住民が支援者(サポーター)となり、地縁、血縁などのつながりを生かして、就労先と若者を結びつけ、就労後も継続して支えていくシステム。いわば、地域の「世話焼き」おじさん・おばさんが支える就労支援。津富さんは「働きたくても働けない若者の就労支援には、地域の人と人のつながりが大切」と強調しました。会場には、就労支援を必要とする若者の家族など約50人が参加し、講演後は熱心な質疑応答が交わされました。

この他、同事業では、聖学院大学の学生と連携したサポーター(ボランティア)研修、市内の働く場所の開拓、親の会の活動、若者の居場所づくり、就労の意志のある人の名簿作りなどに取り組んでいきます。



上尾で映画を観る楽しみ、語る楽しみ

上尾に「まちの映画館」をつくる会

「上尾に『まちの映画館』をつくる会」(佐藤光敏代表)の第15回目となる「上尾 de 映画の時間」が11月9日、コミュニティセンターで開催されました。上映された「月あかりの下で」は県立浦和商业高校定時制のあるクラスの入学から卒業までを記録したドキュメンタリー映画。不登校、家庭の貧困など様々な問題を抱える生徒たちと、寄り添って支える先生方の4年間をカメラで追った感動作。上映後は、同校の卒業生らによる太鼓集団「響」(ひびき)のミニライブがあり、その躍動感あふれるパフォーマンスに客席からは盛大な拍手が送られました。鑑賞後は、「シネマde カフェ」で、コーヒーを飲みながら映画とライブの感動を語り合える交流会が開かれました。



太鼓集団「響」は桶川市で「HIBIKI カフェ」を運営しながら、各地でライブを展開しています。



“いま”に通じる「源氏物語」の魅力

源氏物語を読む会

会員は市内の古典文学好きの女性ばかり現在20人。活動は30年ほど前、図書館で行われた文学講座をきっかけに始まりました。全54帖からなる長大な「源氏物語」。より深く学ぶため時代背景、貴族の宮廷の習慣などを含めて講義してくれる先生を招いて、数年をかけて読み進めています。活動は、毎月第2、第3水曜日に、市民活動支援センター、プラザ22、上尾公民館などで行っています。「源氏物語」の魅力は、千年という



時を経ても人間関係や人の感情は変わらないこと。登場人物に共感したり、憧れたりすることも。時には、光源氏のイメージを今の俳優に例えると、など話が盛り上がることもあるそうです。千年前の宮廷に思いをはせて「いつまでも、ときめきの心を大切にしたい」と会員の皆さんは語ります。

昨年は、11月19日に市民の皆さんに古典文学に親しんでもらおうと市民活動支援センターで「上尾駅前文学講座」を開催しました。講師は、「源氏物語」を担当している萩原昌好先生。テーマは「近松門左衛門作品にみる女性」。題材は江戸時代の作品でしたが、約30人の参加者が熱心に耳をかたむけました。

源氏物語を読む会

代表：山形良子さん

電話：048(725)3691

独り立ちを支える「ベアーズホーム」 NPO法人 青少年の自立を支える埼玉の会

若者が一人前に育つのに、両親の保護のもとでも18年以上はかかる現代。一方、家庭崩壊や虐待等、様々な問題で帰る家庭を失い児童養護施設で育った若者は、就学を終えると同時に何の後ろ盾も身寄りもないまま独り立ちを強いられ、心細さを抱えながら社会に放り出されてしまいます。

そんな矛盾を埋めるための制度改正を機に、NPO法人青少年の自立を支える埼玉の会が発足



し、平成13年、自立援助ホーム「ベアーズホーム」を開設しました。生き方を見つけられずにさまよい、生きていくには多くの困難を抱えている15歳から20歳未満の青少年が入所対象です。彼らが社会で生活していけるように、安心できる居場所を提供し、生活のルールを身に付け、就労を支援し、自立に向けた準備を支えることを目的としています。

市民活動支援センターの会議室を利用して、「様々な困難を抱える若者の諸問題」について、月1回勉強会を開催していますので、ご相談や勉強をご希望の方は是非一度ご連絡下さい。

NPO法人 青少年の自立を支える埼玉の会

連絡先：「ベアーズホーム」内 羽田さん

電話番号：048(778)5858



情報ファイル



ポイント解説 Q&A

Q. 協働事業の実績は？

第1次上尾市民活動推進計画の5年を振り返って、どのような協働事業が取り組まれたのか見てみましょう。

まず、市民活動や市との協働の推進のために設置された市民活動支援センターは、市民団体の活動の拠点となるようセンター施設を利用してもらいながら、上尾駅前市民塾を市民団体に構成する運営委員会とともに開催してきました。また、協働のまちづくりのためのモデル事業を選定して、3年間延べ9団体に対し助成をしました。そして、平成25年度に地域活動デビュー支援事業を市民団体との協働で実施、市民活動へ向けて主にシニア世代の背中を押すイベントを実現しました。

市全体を見渡すと、尾山台地域福祉センター運営事業やつどいの広場「あそぼうよ」委託事業など継続的な展開が期待される事業や、ヒューマンライツミーティング21のようにさまざまな団体が人権というテーマで発表しあうイベント、体験型市民農園開設推進モデル事業のように新たな市の施策に結び付くような事業、ふるさとの緑の景観地保全再生事業のような地域の緑を地域の財産として守る地域性の高い事業など、数多くの協働事業が実施されています。

この5年間の取り組みから市民活動団体の意欲を見出すことができます。その意欲と行政の手の届きにくい部分を結びつける仕組みをしっかりと作り上げることが、今後は求められています。



イベント ボランティア掲示板

講演会

【自分のいのちの番を精いっぱい生きればいい】

～安心して失敗できる人と人との関係を大切に～

◇講師：西野博之氏

NPO 法人フリースペース「たまりば」理事長

「川崎市子ども夢パーク」所長

◇日時：2月1日(日) 午後1時15分開場

◇場所：上尾市文化センター101

◇参加費：無料

◇主催：不登校の子どもを持つ親の会 ムーミンの会

◇連絡先：唐澤恵子さん(TEL 090-9819-1572)

【第13回「ひだまりの小さな書作展」 & 相田ひろきの世界30th Anniversary 展】

知的に障がいのある子どもたちの個性あふれる作品展です
相田ひろきさんは、二科展ほか多数入選

2012年東京都障害者総合美術展 最優秀賞受賞

◆上尾市コミュニティセンターロビーにて

2月7日(土)～11日(水)午前9時30分～午後5時

◆上尾市市民ギャラリーにて

2月12日(木)～18日(水)午前10時～午後5時

◇入場無料

◇主催：NPO 法人 障がい児者芸術クラブ

◇連絡先：大塚則子さん(TEL 048-773-7610)

編集後記

未(ひつじ)の年も明け成人式を祝っていたら、もう地域デビュー支援事業『これからのシニアライフ』が開催間近です。さて1月～3月は年度でいうと第4四半期、締めくくりの季節です。協働のまちづくり事業に選定された市民団体の皆さんも報告発表会に向けて大詰めです。寒いからと閉じこもってはいられませんね。(善)(枝)(明)

皆さまからのイベント、ボランティア情報をお待ちしています！

◎編集・発行 **上尾市市民活動支援センター** 

開館日：火～日 午前9時～午後9時(日曜は午後5時)まで

休館日：毎週月曜、土・日を除く祝日、年末年始

電話：048(778)1810 FAX:048(778)1820

Eメール：s53500@city.ageo.lg.jp

ホームページ：<http://www.city.ageo.lg.jp/soshiki/s53500/>

【案内図】



情報誌タイトル「むすびん」は、「結ぶ」と「お便り」を合わせており、人、市民活動団体、市などを結びつけたいという思いを込めています。